

## **科目Ⅶ 神学的、宗教的人間論**

固有な宗教をすべての人々が持っていないかも知れないが、一人ひとりは何か（だれかを）を信じていると仮説する。祈ることや礼拝はその人それぞれの信仰の表現である。健全な信仰や宗教を持ち続けるために、時には、その信仰、信条や宗教を迷信ではないかと（再）確認する必要がある。長い目でみれば、迷信は健康を損なうものであるからである。

信仰の有無なく、無神論者や不可知論者でも、人間は何らかの超自然の存在を考えているだろう。

超自然の存在（神）の信仰者にとって、罪とその赦し、救いあるいは滅び、復活や輪廻、自己存在の継続であるか終焉かは日常生活、特に病気の時に何らかの影響を与える要素である。不明確な信仰は健康に害を与える。

ねらいは、

自分自身の信条や信仰を（再）明確化することである。

### **概要**

1. 信仰・信条
2. 現実を生きること
3. 信頼と信仰
4. 殉教
5. 宗教
6. 迷信
7. 宗教的ニーズ
8. 超自然の存在（神）
9. 罪と罪の赦し
11. 救いおよび復活
12. 儀式
13. 自己の神学